

第三十四回 相模原薪能 番組

令和四年八月二十日(土) 午後五時開演

挨拶

能楽解説 辰巳満次郎

《仕舞》

加茂 金野泰大

籾 藪 克徳

三井寺 野月 聡

《狂言》

文荷 山本則俊

後見 若松 隆

シテ 宝生和英

黒塚 山本則孝

白頭 山本則孝

後見 辰巳満次郎 小倉健太郎

大鼓 柿原孝則 大鼓 澤田晃良
小鼓 曾和伊喜夫 笛 藤田貴寛



©宝生会

あらすじ

狂言「文荷」

主人が太郎冠者と次郎冠者に衆道の相手(少年)への手紙を持って行かせる。二人は交代で手紙を持ちあつて行くが、やがて竹に結び付けて二人で担ぐ。そのうち手紙が重くなつたことに不審を抱き、手紙を開いてみると、案の定、恋文であった。文面をひやかしながら互いに奪いあつて読むうちに、手紙が破れてしまう。破れた手紙を扇であおいで笑い興じているところを迎えにきた主人が見つけ、二人を追い込む。

能「黒塚」

白頭

廻国巡礼の旅に出た熊野那智の山伏・東光坊祐慶(ワキ)とその一行は、陸奥国安達ヶ原で、老嫗(前シテ)の住む粗末な小屋に一夜の宿を借りる。老嫗は自らの苦しい身の上を嘆きつつ、求められるまま梓袴輪で糸を繰りながら糸尽くしの歌を謡う。やがて夜も更け、老嫗は「留守中、決して私の寝所を覗かないでください」と頼み、山伏たちのために薪を取りに出る。

しかし、山伏の従者は、寝所の中が気になって仕方がない。山伏との攻防の末、ついに密かに部屋を脱け出して寝所を覗くが、そこには大量の死体が積み上げられていた。

従者からの知らせを受けた山伏は、「黒塚に住むという鬼は彼女であつたか」と家から逃げ出す。正体を知られたと悟つた鬼女(後シテ)が怒りの形相で追ってくる。山伏は数珠を擦って何とか鬼女を調伏し、鬼女は己の姿に恥じ入りながら去っていく。

チケットのご案内

予約券(全席指定500席) 500円 7/2(土) 10:00 発売開始

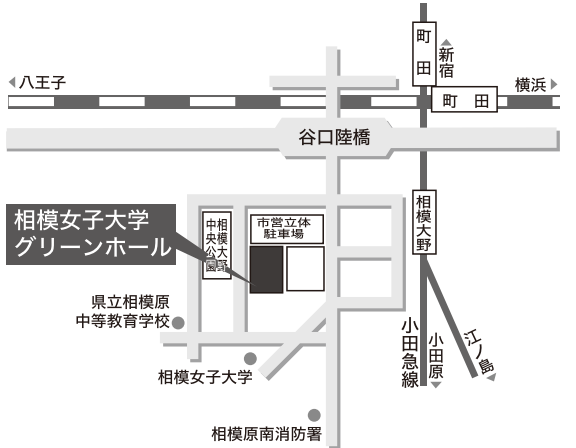
※予約券は1階前方~中ほどのお席になります。 ※電話予約及びチケットムーヴ.netでの取扱い。 ※チケット Move窓口での取扱いはありません。

入場券(全席指定1,000席) 無料 7/8(金) 10:00 取扱開始

※入場券の取扱初日は、電話予約及びチケットムーヴ.netのみ(窓口取扱いなし)。

●チケットMove ☎ 042-742-9999 (10:00~19:00) ●チケットムーヴ.net http://move-ticket.pia.jp/

※お一人様4枚まで。 ※小さなお子様もお一人様1枚の予約券もしくは入場券が必要です。 ※チケットムーヴ.netの場合、1枚につき330円の手数料がかかります。 ※予定枚数に達し次第、販売及び取扱終了となります。 ※新型コロナウイルス感染症拡大の状況により入場者数を変更する場合があります。 ※車椅子席(無料)は別途あり。(付添人1名まで同席可)



会場のご案内

会場のお客様へ

相模女子大学グリーンホールでは、新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策を実施しています。ご来館の皆様には、感染症対策に沿った行動にご協力くださいようお願い申し上げます。 ○施設内ではマスクの着用と咳エチケットをお願いします。 ○人との距離は最低1m(できれば2m)の距離を保つよう努めてください。 ○ご来館の際は手指の消毒や手洗いを行ってください。 ○健康状態に不安のある方は来場をお控えください。 ※劇場ガイドラインに基づき、感染症拡大防止のための対策を講じています。 詳細は、ホームページをご覧ください。

お問合せ 公益財団法人 相模原市民文化財団 ☎ 042-749-2207

ホームページでも情報を配信しています。

相模原市民文化財団 検索

Twitter @Sagami_BUNKA